

現代文学を探究するコース

井上ひさし作品を読む

講師 劇作家 小川未玲

井上ひさしの戯曲について、せりふの書かれ方やト書きの意味など、書き手の視点から、作品にそって読み解いていきます。黙読しているだけでは感じられないことばの魅力、味わいがあるので、参加者で台詞を声に出して音読するような試みも行います。井上作品を通して、戯曲の読み方、楽しみ方に触れてみませんか？

締切 7/31 必着

日程 9/8、10/13、11/17、12/15
各日曜日・全4回

時間 13:30～15:00

定員 50人

受講料 1回500円

テキスト 『父と暮せば』『イヌの仇討』『人間合格』『兄おとうと』を取り上げる予定です。事前に作品を読んでご参加ください。(詳しくは受講者にお知らせします。)



小川 未玲(おがわ みれい)

1967年生まれ。女子美術短期大学卒。4歳の時に買ってもらった昔話の絵本付きレコード(全12巻)を毎晩聴きながら眠りにつく生活を中学卒業まで続ける。この睡眠学習による独学で後に「お話」を書き始め、1993年、テアトル・エコー創作戯曲募集において『深く眠ろう、死の手前ぐらゐまで』で佳作入選。以降、マイペースに戯曲・物語を執筆。父が井上ひさしと大学以来の友人だった縁で、1996年から井上事務所勤務。井上ひさしの秘書を務めた。主な戯曲作品に『もやしの唄』『お勝手の姫』『キニサクハナノナ』など。

仙台文学館 ゼミナール 2019

- 近代文学を読み解くコース
 - ・与謝野晶子と平塚らいてうを読む
 - ・太宰治の短篇小説を読む
- 現代文学を探究するコース
 - ・井上ひさし作品を読む
- 日本の古典に親しむコース
 - ・『万葉集』を味わう
 - ・『源氏物語』を読む
- 表現をみがくコース
 - ・朗読ワークショップ～物語を読む
 - ・佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座
 - ・俳句実作講座
 - ・川柳実作講座「川柳入門～川柳を楽しむ」

※会場はすべて仙台文学館講習室

深い言葉の世界を追究し、
知的刺激と発見をめざす「仙台文学館ゼミナール」。
日々の暮らしのなかで文学や言葉に
関心を持つ方々にむけて、
成熟した読書と表現を究めるカリキュラムをお届けします。

バス利用の場合 〈宮城交通バス〉 仙台駅西口バスプール2～4、6番乗り場 仙台北・泉地区方面行(急行・北山トンネル経由を除く)
〈市営バス〉 仙台駅西口バスプール6番乗り場 八乙女駅行
※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

地下鉄利用の場合 南北線「台原駅」下車、徒歩約25分
(台原森林公園内あかまつの道経由)

駐車場 40台(無料) 台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



Sendai Literature Museum
仙台文学館
〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020 FAX.022-271-3044
http://www.sendai-lit.jp/

※再生紙を使用しています。このチラシはリサイクルできます。

申込みについて

- ◆往復はがきに、住所、氏名、電話・ファックス番号(講座日変更などの連絡に必要)、希望する講座名を記入の上、仙台文学館にお送りください。はがき1枚につき、1人、1講座の申込みとします。複数講座に参加ご希望の方は、それぞれにお申込みください。
- ◆締切は必着で、各講座それぞれ違いますので、ご注意ください。
- ◆カリキュラムは、全回参加して1講座が終了するように組んでありますので、基本的に、各講座とも毎回ご参加ください。
- ◆申込みが定員を超える場合は抽選となります。なお余裕のある場合は、締切後も受け付けますので、お問合せください。
- ◆返信は、締切後にお送りします。(先着順ではありません。)

申込先

仙台文学館
〒981-0902
仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020
※いただいた個人情報はゼミナールに関するご連絡以外には使用しません。

近代文学を読み解くコース

与謝野晶子と平塚らいてうを読む 締切 8/10 必着

講師 吉野作造記念館主任研究員 小嶋 翔
『明星』で活躍した歌人・与謝野晶子。『青鞥』を創刊した思想家・平塚らいてう。ともに女性の地位向上に努めた2人ですが、実際には対立することもしばしば……。2人が思い描いた人間のあり方、女性のあり方とはどのようなものだったのでしょうか。「みだれ髪」「元始、女性は太陽であった」といった代表作品を中心に読み解きます。

日程 9/18、10/2、10/16、10/30、11/13 各水曜日・全5回
時間 13:30～15:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 講義はこちらで用意したプリントに沿って進める予定です。

小嶋 翔(こじま しょう)
1984年生まれ。東北大学大学院博士課程修了。博士(文学)。吉野作造記念館主任研究員。著書に『近代日本における私生活と政治 与謝野晶子と平塚らいてう』など。専門は日本近代思想史、個人主義と相互扶助の調和をテーマに、与謝野晶子や平塚らいてう、また吉野作造など、大正デモクラシー期の社会思想の研究に取り組んでいる。

太宰治の短篇小说を読む 締切 9/10 必着

講師 東北工業大学准教授 高橋 秀太郎
「私は、太宰を軽やかな作家だなと思う」。これは「女生徒」を読んだ作家江國香織氏の言葉です。太宰は自他共に認める短篇小说の優れた書き手でした。本講座では、教科書でおなじみの「走れメロス」、うら若き女性の心情を鮮やかに作りあげた「女生徒」、ユダの裏切りという劇的瞬間を描く「駆込み訴え」を中心に、太宰短篇作品の表と裏を、映像も交えつつ解説します。

日程 10/13、11/3、11/10、11/17、12/8 各日曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 『富嶽百景 走れメロス』(岩波文庫)
※講座で取り上げる作品が入っている本であれば何でもかまいません。

高橋 秀太郎(たかはし しゅうたろう)
1974年生まれ。東北大学大学院文学研究科博士課程修了。現在、東北工業大学共通教育センター准教授。専門は太宰治を中心とする日本近代文学。特に太宰治と戦争というテーマについて研究している。最近では、太宰が作品を掲載した『月刊東北』(河北新報社、昭和19年創刊)と『東北文学』(同、昭和21年創刊)の全体像についての調査もすすめている。

『万葉集』を味わう 締切 7/31 必着

講師 一関工業高等専門学校総合科学人文社会領域教授 津田 大樹
この講座では『万葉集』を代表する歌人、柿本人麻呂を取り上げます。古代の歴史的文化的な背景を踏まえながら、雑歌・相聞・挽歌の三大部立にわたる人麻呂の代表作を読み取ります。また歌の解釈や鑑賞に当たって、人麻呂研究に力を尽くしたアララギ派の歌人、斎藤茂吉の著作を取り上げていきます。

日程 9/1、9/8、9/15、9/22、9/29 各日曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 講義はこちらで用意した資料に沿って進める予定です。お持ちの『万葉集』がある方はご持参ください。毎回、次の講座で扱う予定の歌をお知らせします。

津田 大樹(つだ たいき)
1967年生まれ。東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。現在、一関工業高等専門学校人文社会系教授。『万葉集』を主とした古代文学を専門としている。歌の表現の成り立ちを古代の歴史や文化を踏まえながら明らかにすることを目指している。

『源氏物語』を読む 締切 8/10 必着

講師 東北大学大学院文学研究科教授 横溝 博
紫式部の『源氏物語』は今日、世界文学として多くの読者に親しまれています。時空を超えて現代の私たちに深い共感と感銘をもたらす『源氏物語』の魅力とは何でしょうか。本講座では、光源氏の青年～中年時代を彩る、朧月夜・斎宮女御・明石の君・紫の上・玉鬘といった女性たちに光を当て、光源氏との恋愛模様の機微を読み解いていきます。

日程 9/20、9/27、10/11、11/8、11/15 各金曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 講義はこちらで用意したプリントに沿って進めますが、お持ちの『源氏物語』がある方はご持参ください。

横溝 博(よこみぞ ひろし)
1971年生まれ。専門は中古・中世の王朝物語及び日記文学。平安時代に作られた様々な文化的コンテンツが、後の時代に受容され再生産されていく動態に着目し、王朝文化の内包する豊饒な感性の世界の可能性を、現在にも共有し押しひろげようと、日々古典文学作品の研究に努めている。近年では『新古今和歌集』の時代に作られた「中世王朝物語」と呼ばれる作品群に深い関心を寄せ、論考を発表している。

表現をみがくコース

朗読ワークショップ～物語を読む 締切 4/10 必着

講師 フリーアナウンサー・朗読家 渡辺 祥子
声で伝える喜びを味わえる「朗読」の世界。その世界に魅了される人が年々増えています。文学作品の朗読やナレーションで活躍中の講師のもと、日本語が持つ、特有の音の美しさを味わいながら、実践で練習します。

日程 4/28、5/12、5/19、6/9、6/23 各日曜日・全5回
時間 午前の部10:30～12:30 ※午前・午後とも同じ内容です。(どちらかを明記のうえご応募ください) 午後の部14:00～16:00
定員 午前・午後とも各30人
受講料 1回1,000円

渡辺 祥子(わたなべ しょうこ)
フリーアナウンサー・朗読家。ラジオパーソナリティや司会を務める傍ら、98年より朗読や語りや音楽を融合させた舞台公演をスタートさせる。様々な文学作品のレパートリーを持つ他、詩や童話など幅広いジャンルの朗読、さらに宮城ゆかりの人物や作品にスポットをあてたオリジナル作品の制作にも取り組む。2016年5月、詩人作家・星野富弘氏の作品を朗読したCD『Brilliant Life ～いのちの輝き～』(グローリア・アーツ)をリリース。

佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座 締切 4/10 必着

講師 作家 佐伯 一麦
作家・佐伯一麦が、書くことの貴重さを伝えるエッセイ実作鑑賞講座。今年度で4回目となる本講座では、各回事前に出されるテーマに応じて、受講生の方全員に作品を提出していただきます。講座内ではその中から何作品かをとり上げ、受講生の方の感想も求めつつ講師が講評を行い、書くことと読むこと両方のレベルアップを図ります。また、課題のテーマに合わせた文学作品の鑑賞も行います。実作に挑戦したい方のご参加をお待ちしております。

日程 5/5、7/7、9/1、11/3、1/12 各日曜日・全5回
時間 13:30～15:30
定員 30人
受講料 1回1,000円

佐伯 一麦(さえき かずみ)
1959年生まれ。高校卒業後、上京して週刊誌記者や電気工の勤めの傍ら作品を書く。数々の文学賞を受賞し、07年には『ノルゲ』(講談社)で野間文芸賞、14年『還れぬ家』(新潮社)で毎日芸術賞、『渡良瀬』(岩波書店)で伊藤整文学賞を受賞。自然の移り変わりや、人間の日々の営みを「定点観測」した作品からは、あらゆる事象への深い洞察力と温かいまなざしを感じられる。

俳句実作講座 締切 4/16 必着

講師 「小熊座」主宰 高野 ムツオ
優れた俳句作品の鑑賞を通して、その伝統と基礎を学びながら、実際に作品を作っていきます。<俳句の定型をとおして、今までにない言葉と言葉の関係を構築し、新たな自分と向き合うこと>が、自らの句作の信念である講師の下、鑑賞と実作の基本を学びます。

日程 5/15、5/29、6/19、7/3、9/11 各水曜日・全5回
時間 13:30～15:00
定員 30人
受講料 1回1,000円

高野 ムツオ(たかの むつお)
1947年生まれ。俳人。市内の中学校教諭を務めながら句作を続け、79年に俳誌「小熊座」を主宰していた佐藤鬼房の門を叩く。その後同誌の編集に携わり、現在は主宰。句集に『雲雀の血』(ふらんす堂)、『蟲の王』(角川書店)、『萬の翅』(角川芸文出版、読売文学賞・小野市詩歌文学賞・蛇笏賞受賞)など。鬼房の詩魂を継承しつつ、定型が生み出す感動のダイナミズムを模索する俳人が、実作を手ほどこする。

川柳実作講座「川柳入門～川柳を楽しむ」 締切 8/10 必着

講師 「川柳宮城野」主幹 雫石 隆子、水戸 一志、津田 公子
川柳は発祥から260年余。新元号を迎えて、癒しの五七五 川柳をご一緒に楽しんでみませんか。初心者の方に取り組みやすい作句法をご指導いたします。また、川柳の楽しみ方は、作句することとともに、句会を楽しんだり、古今の秀句を鑑賞したりすることです。皆さまとの出会いを楽しみにしております。

日程 9/14、10/12、11/9、12/14 各土曜日・全4回
時間 13:30～15:00
定員 30人
受講料 1回1,000円

雫石 隆子(しずくいし りゅうこ)
川柳作家。85年より「川柳宮城野」に入会。文芸川柳を中心に、社会・世相・時事を扱った作品のほか、東北の方言による創作にも力を入れる。句集に『樹下のまつり』(川柳宮城野社)。「川柳は人生の詩(うた)」であり、「誰もが気軽に自分の本音や思いを表現できる爽快感・心地良さ」がその魅力と語る。川柳を広く時代に継承したいという思いから、本講座の開催に至った。